

令和4年度 岩手県立大学宮古短期大学部

「文理融合データサイエンス教育プログラム」自己点検・評価報告書

岩手県立大学宮古短期大学部 教務委員会

令和4年度より、宮古短期大学部では「文理融合データサイエンス教育プログラム」を実施した。この教育プログラムの自己点検・評価結果は次のとおりである。

1. プログラムの履修・修得状況

本プログラムを構成する各科目では、学内の学務システム (Active Academy Advance) によって履修・修得状況を、授業支援システム (WebClass) によって受講者毎の課題提出状況を、出席管理システムによって授業の出席状況をそれぞれ把握することができる。令和4年度の実績は次のとおりである。

プログラムを構成する科目のうち、1年次開講科目は5科目であり修了要件を満たした学生は新入生の80名(新入生の80%)がプログラムを修了している。プログラムの修了条件を満たしていない学生においても4つのカテゴリーの内3つのカテゴリーで要件を満たしている学生が新入生の18名(18%)となっており2年次で修了条件を満たすことが期待されている。

2. 学修成果

授業における評価方法が、課題の達成度、内容の理解に基づいている。また授業アンケートにおける「得たものが多かったですか」「到達目標は達成できましたか」の項目を分析することにより、学生自身による理解度の自己評価を把握することができる。これらを統合的に分析することにより、学修成果の把握を行う。

また、これらの結果を担当教員を中心に教員間で共有し、検証することで、本教育プログラムの評価・改善を行う。

3. 授業アンケート等を通じた学生の内容の理解度

本教育プログラムを構成する授業科目について、授業アンケートを実施している。アンケートにおける「得たものが多かったですか」「到達目標は達成できましたか」という項目を分析することにより、学生の内容の理解度を把握する。

令和4年度においては「得たもの」について、肯定的な評価となる6段階中上位3段階が科目平均で87%を占めている。また、「到達目標」については83%を占めている。このような情報を担当教員を中心にフィードバックすることで、学生の理解度を把握するとともに、理解度向上への改善につなげる。

4. 授業アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

各科目について授業アンケートには「得たものが多かったですか」「到達目標は達成できましたか」に加え、「真剣な態度で参加できましたか」も含まれている。令和4年度においては、「真剣な

態度」で肯定的な評価となる6段階中上位3段階が87%を占めている。これらの結果を、本教育プログラムを構成する授業科目において、学生に伝えることで、授業の履修を推奨する。また個人情報にも配慮したうえで学生の意見を公開するほか、学ぶ内容の活用機会などを必修科目において紹介することで、推奨を強化する。

5. 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

本プログラムは1年次に開講される7科目（必修2科目、選択5科目）と2年次に開講される2科目（選択2科目）からなる。選択科目の選び方によっては、1年次のうちに本プログラムの修了要件を満たすことができる。令和3年度（本プログラム開始前年度）に該当する科目を選択した学生の実績は約80%であり、実績値としての変化は無いが、本プログラムをスタートしたことにより各科目間のつながりをより体系的に示すことができ、学生の関心度や学習意欲が高められたといえる。

令和5年度には、2年次開講科目の履修者の増加によって本プログラム修了生の増加が期待される。さらに、令和6年度以降は、それまでの実績をもとに、さらに履修率が向上するよう学内外への本プログラムの周知と、新入生への履修指導に努めていく。

6. 学外からの視点

・教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

本短期大学の卒業生の就職先は、金融・保険業、医療・福祉、製造業、建設業、情報通信業、卸・小売業、サービス業など、多業種にわたっており、卒業生には、AIをはじめとする最新技術を活用し、新たな価値やあらたな社会を創造することが求められている。本プログラムの修了生が卒業する令和6年度以降からは、企業等へのアンケートなどをもとに本プログラムを改善していく。

・産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

岩手県内の高等教育機関や地方公共団体、経済・産業団体からなる「いわて高等教育地域連携プラットフォーム」による、「高等教育人材の教育及び県内定着促進に関するアンケート調査」によれば、岩手県内の430事業所のうち、約7割の事業所が大学等高等教育機関（大学・短大・高専）に求める教育プログラムとして「数理・データサイエンス・AI・IT教育」をあげている。また、本学の設立団体である岩手県が示した「いわて県民計画（2019～2028）」では、AIをはじめとする第4次産業革命技術を活用し、新たな社会を創造し、岩手県の未来をけん引する人材の育成を目指している。このような社会的な要請に応えるべく、本プログラムの改善していく。

7. 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

本プログラムを構成する必修科目である「経営情報概論（1年前期）」ならびに「情報社会論（1年後期）」において、数理・データサイエンス・AIを学ぶことについて、社会での実例等をまじえながら講義することで、「学ぶことの楽しさ」や「学ぶことの意義」の理解の向上に努めている。今後も授業アンケート等を活用しながらプログラムの改善を続けていく。

8. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

「わかりやすい」授業の評価として、授業アンケートの「総合的に考えてこの授業に満足できましたか」を参考として取り上げると、令和4年度において「満足」について、肯定的な評価となる6段階中上位3段階が科目平均で85%を占めており満足度の高いものとなっておりわかりやすい授

業運営が行われていると推測される。今後とも授業アンケート等を参考にしながら「分かりやすい」授業となるように改善に努めていく。

以上